

第6学年1組 図画工作科学習指導案

1. 題材名 墨の軌跡・奇跡 B鑑賞(1) 鑑賞

2. 題材設定の理由

○ 本学級の児童は、図画工作科の学習に意欲的に取り組み、事前のアンケートでもクラスの殆ど(34人中26人)の児童は「好き」と答えている。1学期の「感じたままに花」の学習では、見たものを見たままに描くのではなく、自分の感じた色と形で思い付くままに絵を描く楽しさを味わい、「うつつして見つけた私の世界」の学習では、スチレンボードの特徴を生かした版づくりで簡単な模様づくりや色の重ね方やを楽しんできた。初めは、表現することにためらいがあった児童が時間が経つにつれ、表現活動に熱中するようになった。しかし、思いっきり気持ちを発散させ、作品づくりに没頭するまでには至っていない。そこで、大きな和紙と描材を工夫して、思い切って気持ちの発散をしたり、友達とのかかわり合いを通して、自分のイメージを広げたり、表現の仕方を工夫する楽しさや喜びを十分に味わうようにしたい。また、児童は、3学年から書写の学習をしており、墨には親しんでいるが、墨の濃淡やかすれなどの墨による表現活動の面白さは味わっていない。

○ 本題材は、筆やはけ、身の回りの材料を筆代わりにしていろいろなかき方を試みる活動である。墨の濃淡、色合い、にじみ、かすれなどの表現のよさや美しさを味わい、また、和紙に筆と墨でいろいろなかき方を試みながら工夫することができる。また、墨の香りや和紙に墨でかく快さ・楽しさなどを味わうことができる題材である。この題材で体全体を使って思いを十分に作品に表現したり、五感を使ってダイナミックに表現したりすることをねらっている。また、この題材は、中学校における学習「モノトーンの美しさ(水墨画の世界)」につながっていくものである。

3. 研究の着眼点

【視点1】題材設定や展開の仕方を工夫する視点から

「であう」段階では、墨との出会いを感動的なものにするために、参考作品を見て一人一人の自由な感想をとりあげながら墨を使った表現活動に対する関心を高める。墨のにじみ、墨のかすれ、墨の濃淡の工夫の3点の参考作品から、墨による表現の面白さに気付かせるようにするとともに、筆の種類や筆遣いによって作品のイメージが違うことにも気付くようにする。墨から生まれる形や軌跡を大切に、組み合わせの美しさやおもしろさにも気付くことができ、自分たちもかいてみたいという思いを膨らませる。

「みつける・あらわす」段階の導入では、参考作品から体全体を使ってのびのびと楽しく面白さを伝えるために、大きな和紙にかいた絵を提示し、ダイナミックな表現活動の意欲を高めた。また、体育館横屋外ロータリーの開放的な空間でのびのびと表現活動ができるように場を設定し、開放的な雰囲気作りをする。児童の周りにはけや筆など表現するための用具とその用具を使って試せるように紙を何箇所か置いておき、それぞれの用具を児童が自由に試してみることができるようにしておく。

「あじわう」の段階では、グループでつくった作品を二つずつ体育館の壁に掲示することによって、大きな作品のよさや勢いや作品の特徴を感じやすいようにする。色の違った付箋を三色用意することによって墨の濃淡や動き、イメージという観点に目がいきやすく鑑賞を楽しみやすい場作りを行う。

【視点2】言語活動の場や方法を工夫する視点から

「であう」段階では、教師の参考作品を見て、自分の思ったことや疑問点を出し合い、墨の濃淡

や表し方の違いに気付くようにし、墨を使った創作活動に興味をもつようにする。

「あらわす」段階では、個人の思いを大切にしながら、グループでの作品づくりのイメージを広げるために視点を明確にした話し合いをさせるようにする。(どんな作品にしたいか(テーマ)・どんな筆を使いたいか・3枚の和紙をどのメンバーでかくか・かく順番をどうするか等)豊かに表現するため、自分のイメージが広がる工夫につなげる。さらにかきながら、グループで意見交流させるようにする。教室には、今までの創作活動でのパレットタイムに出てきた輝く言葉を掲示し、表現をしやすい環境づくりを行う。

「あじわう」段階では、付箋(赤:墨の濃淡。青:作品の動き。黄:イメージ)を利用し、グループでのギャラリートークや全体交流での意見交換を取り入れることによって交流活動がより活発に行われるようにする。言葉や体を使った表現活動を通して感じたことを自分なりの方法で、のびのびと鑑賞したことを表現するようにしたい。墨の作品のお互いの表現のよさや面白さを認め合い、表現する喜びをさらに高めていきたい。

4. 目標

造形への 関心・意欲・態度	○ 墨を使ってかくいろいろな表し方に関心を高め、絵をかく楽しさや快さを味わおうとする。
発想や構想の能力	○ 画面の組み立て方や、墨による表現の効果を生かしたかき方を考えたり試みたりできる。
創造的な技能	○ 墨や筆の使い方を工夫し、その効果を確認しながら、絵に表すことができる。
鑑賞の能力	○ 友達の作品を見て、そのよさや美しさを感じ取り、認め合うことができる。

5. 指導計画と評価計画(総時数 5時間)

	主な学習活動・内容	指導・支援上の留意点 ◎言語活動	評価規準および評価方法
であ う	1. 教師の参考作品を見て、みんなで話し合う。 ① 	○ 感じの違う三つの作品を提示することによって材料や表し方の違いに気付くようにする。 ◎ <u>参考作品を見て、作品の印象や感じたことを自由に話し合い、墨を使った表し方の美しさやよさに気づき、自分達もやってみたいという意欲が湧くようにする。</u>	【関】墨を使った表現活動に関心をもち、墨を使った表現活動の楽しさや快さを味わおうとしている。 (行動観察・発言)
みつ ける ・ あ ら	2. 身の回りの材料を道具として試しながらかく。 ①	○ 画面の組み立てや墨の濃淡にじみ・かすれなどの効果、墨の香りや筆でかいた時の手や体の感じなどに目を向けさせて気づきを引き出し、個人でかく楽しさを体全体で味わわせるようにする。 ○ 大きな紙にかいた参考作品から、	【発】墨による表現の効果を生かしたかき方を考えたり、試したりしている。 (作品・行動観察・カード)

わ す	<p><描材を探す></p> <p>3. 筆づくりをする。 ①</p> <p>4. グループで大きな和紙に絵を描く。 ①</p>	<p>筆づくりの意欲を高める。</p> <p>○ 身近材料を利用して、効果を想像・期待しながら、筆づくりを楽しむようにする。</p> <p>○ 随時、出来た筆のかき味を楽しむように、図工室に墨と場の設定しておく。</p> <p>○ 大きな和紙にかいた参考作品から表現への意欲を高め活動の見通しをもたせるようにする。</p> <p>◎ <u>グループでの話し合い活動を通してイメージを共有し、大きな紙に絵をかくことへの制作意欲を高める。</u></p> <p>◎ <u>かきながら感じたことや思いや考えを交流し合い、協力して効果的な表現方法を工夫するようにする。</u></p> <p>○ 声に出して線をかいたり、体全体を動かしたりしながら、楽しさを味わう。</p>	<p>【関】筆のかき味を想像しながら、楽しんで筆づくりをしている。 (行動観察)</p> <p>【発】グループでイメージを共有しながらのびのびと楽しく表現活動をしている。 (行動観察・話し合い・カード)</p> <p>【創】墨や筆の使い方を工夫し、効果を確かめて、絵に表している。 (作品・行動観察・カード)</p>
あ じ わ う	<p>5. 作品鑑賞を行う。 <本時> ①</p>	<p>○ 全部の作品を体育館に掲示して作品鑑賞会をする。</p> <p>○ 三色の付箋を用い、話し合いの観点をもつようにする。</p> <p>◎ <u>自分のグループや他のグループのよさや美しさについて共感できるように話し合う。</u></p>	<p>【鑑】墨を使った作品のよさや感じを味わい、その特徴を感じ取っている。 (カード・発言)</p>

6. 本時の学習 平成26年10月3日(金) 第5校時 体育館

(1) 主眼

グループの作品を鑑賞することを通して、墨を使った作品のよさや面白さを感じ取ることができるようにする。

(2) 準備

① 教師 話し合いのポイントのカード

② 児童 学習カード、筆記用具

(3) 展開

	主な学習活動・内容	○ 指導・支援上の留意点【観点】評価規準（評価方法）
であう	<p>1. 前時までの学習を振り返り、鑑賞の視点を確かめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 前時までの学習で見られた表現の工夫が鑑賞の視点となる。 ・ 墨の濃淡 ・ 作品の線の動き ・ イメージ <p>2. 本時のめあてを確保し、自分のめあてを立てる。</p>	<p>○ 作品や図工のノートなどからこれまでの学習を振り返るようにする。</p> <p>○ 自分はどうな工夫をして作品をつくってきたかを振り返らせることで鑑賞の視点を明確にする。</p> <p>○ 作品の見方や感じ方をより深めることができるように付箋を視点別に3色用意する。</p> <p>○ 全体のめあてをもとにして自分のめあてをもつようにし、図工ノートに書くようにする。</p>
	<p>めあて 友だちの作品をじっくり見て作品の表し方の工夫を見付け、伝え合おう。</p>	
みつける・あらかわす	<p>3. 作品の鑑賞を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 班ごとのギャラリートークを行う。 司会を決め行う。 1グループの作品・・・5分程度 1グループが5グループの絵を鑑賞する。 予め付箋を貼っておく。 <p>私は、かすれた筆の感じが春風のように好きです。</p>  <p>4. グループの作品の前に集まり、作品の感想をクラスみんなで話し合う。</p> <p>この濃淡が嵐の強さを表してるようだと思います。</p>  <p>この曲がった筆の感じが風が作る音楽のように感じました。</p> 	<p>○ 体育館の壁面に児童の目線を意識して作品を掲示し、他のグループの作品とも比べやすいようにする。</p> <p>◆ 事前に付箋を貼ることにより自分の思いが発表しやすいように話し合いが活発になるようにする。</p> <p>◎ <u>見る観点を提示し、感想を表現しやすいようにする。</u></p> <p>◎ <u>作品に対する発見や知りたいことなどを発表するようにし、言語での表現の他に身体表現も入れてよいようにする。</u></p> <p>【関】 作品を見ることを楽しみ、そのよさに気付いている。 (行動観察・発言分析・付箋)</p> <p>○ 友達の意見を聞くことにより、友達の感じ方と自分の感じ方の違いに気付くとともに自分が気付かなかった作品のよさに改めて気づき、作品を鑑賞する楽しさが感じられるようにする。</p> <p>○ 全体のパレットタイムでは、鑑賞して感じたことやテーマについて話し合った後、つくったグループに作品に対する思いやテーマを発表してもらい、自分達の感じたことと比較したり、作品に対する思いを深めていったりする。</p> <p>◎ <u>クラス全体で発表し合い、思いを共有したり、共感したりできるようにし、作品の鑑賞の楽しさを味わうようにする。</u></p> <p>鑑賞って楽しいなあ。</p>  <p>見る人によって感じ方が違って面白いなあ。</p> 
あじわう	<p>5. 今日の鑑賞カード・いいねカードを書く。</p>	<p>◎ <u>作品のよさや今日の感想を記録に残しておく。</u></p> <p>○ いいねカードで友達から作品のよさを教えてもらい、自分のこれからの作品づくりに意欲につながるようにする。</p>

ご指導よろしくお願いたします。